

## 第19回（バハマ 2024）世界陸上リレー帯同報告

塚原 由佳  
医事委員会委員

### 1. はじめに

世界リレー 2024 は 2024 年 5 月にカリブ海のバハマで行われた。本レポートでは、本大会のメディカルサポートについて報告する。

### 2. 選手団及び大会の概要

世界リレー 2024 は 2024 年 5 月 4 日～5 日にバハマ・ナッソーで開催され、男子 4 継のみアメリカでの試合に事前に出場し大きく 2 組に分かれて渡航した。選手団第 1 陣は 4 月 23 日にアメリカのルイジアナ州入り、試合に出場した。残りのメンバーは 4 月 28 日に日本を出発して、ダラス経由でバハマ入りとなった。

選手団は選手 20 名（男子 13 名、女子 7 名）、コーチ・スタッフ 11 名の総勢 31 名であった。メディカルサポートとしては医師 1 名、トレーナー 2 名が帯同した。

### 3. 渡航前準備

これまでの大会と同様、代表決定後に Google Form を用いたメディカルアンケートを行った。これまでの既往歴や現在の状況、内服薬、サプリメント等について確認した。入力が遅い選手が数名いたため、サプリメントの分析を行うにあたって薬剤師の先生方には時間外に多く働いていただくことになった。

試合にむけて、医事委員会の協力を得て作成した時差対策、医事委員会スポーツ栄養部に作成いただいた下痢症の対策について、情報提供を行った。

昨年度より、ドクターバックの薬品が日本から持ち出し可能な市販薬中心となったため、メディカル持参薬品や資材の確認・補充を行い、男子 4

継組のために別途薬剤等を分散させた。また、運動器用超音波診断装置を持参した。

### 4. 渡航および現地の状況

気候は暑く、日中の気温は日本より高い印象であったが、朝・夕は比較的涼しく、海沿いのため風は強かった。

ホテルは前半は“Warwick Hotel”を使用した。部屋は日本で一般的なツインの大きさよりやや広い大きさであり、十分な広さであった。食事はビュッフェスタイルであり洋食が中心で、主食は米、じゃがいも、ライスがあり、肉、魚、野菜、フルーツ、スイーツなどバランスが取れていた。食事の衛生面に問題はなく、飲み物もサーバーが運んでくれる飲み放題であった。食事の味や種類はかなり十分であった。後半に宿泊したホテルは“Atlantis”という豪華リゾートで前半のホテルからも徒歩 10 分程度の距離であった。部屋は綺麗なツインだったが、数名シングルの選手は徒歩 15 分ほどかかる別棟に宿泊した。食事のレベルと種類は落ちたため選手の中には日本から持参した食事に対処



図1：ビュッフェスタイルの食事



図 2：食事例

したものが散見された。

メインスタジアムとその横にあるサブトラック，練習場へはバスで 20 分～30 分程度離れていた。バスは基本的に日本チームで予約して貸切であったが時間通りに来ないことや出発しないことが多かった。この理由の一つとしては，毎回ではなかったが警察の誘導があったため，渋滞を避けることはできたものの，警察の到着が遅れてしまうことで最終的な到着時刻は変わらなかったことと思われる。

医務室はメインスタジアム，サブトラックに設置されていた。ホテルには大会側のトレーナールームがあった。サブトラックにはリカバリー用の Ice Bath が設置されていた。サブトラックの医務室は基本的には救急対応できるものしか備えておらず，超音波機械などはなかった。

## 5. メディカルサポート

メディカルチームによるメディカルサポートはサブトラック，ホテルの部屋に作ったチームトレーナールームにて行った。

内科疾患の対応は 2 名であり，整形外科的対応が必要な選手に関しては超音波機器を使用して診察・診断をした。少し空気の乾燥があり，咳嗽症状が少しでたものがいた。

## 6. ドーピングコントロール

大会前の競技会外検査は行われなかった。競技会内検査は 1 名のみが対象となったが，尿検査のみであった。検査室は人が多くごった返しになっていたが，プロセスは割とスムーズに行われた。



図 3：リカバリー用 Ice Bath



図 4：サブトラックでの活動

## 7. まとめ

大会としては，男子がリレーでパリ五輪出場を決めることができた。外傷・障害はゼロではなかったが，衛生面も良かったことからほとんどの選手が時差症候群がある中ではあったものの体調を崩すことがなかったのは幸いであった。スポーツ外傷・障害に関しても、トレーナーによる綿密なケアにより，悪化することなく過ごせたことは良かった。また，エコーを持参することは 正直大変な作業であるが



評価ができるので、選手からも評判も良い印象を受けた。

今回はチーム団としては大きいものではなかったものの、その分選手やコーチとコミュニケーションは取りやすかった。今後パリ五輪に向けて様々な形でサポートをしていきたい。



図 5：メディカルスタッフの集合写真



図 6：競技会会場の様子



図 7：滞在ホテルの外観